No.3　下野市立石橋中学校

校長室だより

スローガン　～生徒も先生も、自ら輝く学校～

学校教育ビジョン
『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成
キーワード「自立・貢献・創造」
令和５年６月２１日（水）
発行者　田熊利光
石中ホームページＱＲコード

校長メッセージ

将来にわたる持続可能な幸福感（ウエルビーイング）をもって生きるための「利他の精神」について

前号の『校長室だより』では、自己実現・目標達成するために大切なことを、大谷翔平選手の目標達成の秘密を例にして書きました。今回は、心の土台となる「利他の精神」について書きたいと思います。私が目指している教育ビジョンは「未来を、たくましく生き抜ける生徒の育成」であり、教育ビジョンを達成するためのキーワードが「自立・貢献・創造」です。また、皆さんが、将来にわたって持続的に幸福感を持って生き抜い欲しいという思いから、大切な価値観として「利他の精神」を掲げています。人間は決して一人では生きていけません。ある時は、誰かに支えてもらったり、ある時は誰かの支えになったりして、お互いに支えあって生きているわけです。「自分の力を他者のために発揮して仲間や集団に貢献すること」は、「自己有用感」につながり、自分の幸せになるのです。また、「自分たちでより良い未来を創造するんだ」という思いは、困難を乗り越える原動力になります。石中では、様々な教育活動を通して、「未来を、たくましく生き抜ける力」を育んでいきたいと考えています。

６月８日（木）・９日（金）に関東甲信越地区中学校長会研究協議会・山梨大会に参加しました。記念講演で山梨大学学長の中村和彦先生のお話を聞きました。

（一部要約）

「山梨大学は、ウクライナからの医学研修生をたくさん受け入れています。彼等は本当に真剣に学んでいます。中には、日本に来られないのでオンラインで学んでいる学生もいます。爆撃のために、地下に避難すると、映像が途切れてしまうことも多々あります。中には、怪我をしたり、亡くなった学生もいると聞いています。それでも彼等は必死に学び続けています。そして、彼等はこの戦時中にもかかわらず、祖国ウクライナに帰りたいと言います。日本で学んだことを祖国の人たちのために生かしたい、と言っています。私はそんな彼等の思いに全力で応えたいと思っています」と話していました。

中村学長は「見返りを求めず全力で助けることが大切だ」とも話されていました。中村学長は、ウクライナの学生を、全力で支えようとする利他の精神の持ち主だと思います。そして、友人である**ノーベル医学・生理学賞を受賞された大村智先生の座右の銘「至誠惻怛」（しせいそくたつ）**という言葉を紹介してくださいました。意味は**「誠意をもって人と関わり、相手の気持ちを慮（おもんぱか）る。そのことによって世の中をよくすることができる」**です。「教育の原点として、先生方に是非伝えてほしい」と、大村先生が中村学長に託されたそうです。まさに、利他の精神を説いた言葉です。

ウクライナの学生たちは、自分たちが日本で学ぶことで、ウクライナの人たちを救いたい、社会を少しでも良くすることに貢献したいという熱い思いがあるから、どんな困難な状況でも頑張れるわけです。これと同じようなことは、スポーツの世界でも起きています。前号では触れませんでしたが、ＷＢＣ世界一になった日本選手の活躍の背景には、栗山監督が話していた「世界の人々に日本の野球の素晴らしさを伝えたい。日本の子どもたちが我々の戦いを見て、将来プロ野球選手になりたいと思ってもらえたら最高です」という思いを、選手全員が共有していたから、どんなに苦しい場面でも、決して諦めず、全員で支え合って最高の結果が得られたのだと思います。

今、石橋中学校には、７名の教育実習生が、先生になるために学んでいます。私は、教育実習生に必ず、「なぜ先生になりたいと思ったのですか」という質問をします。実習生の多くが、**「小学校・中学校・大学で自分に関わってくださった先生方に支えていただいたお陰で、今の自分がある。自分が先生方に支えていただいたように、将来先生になって、今度は自分が生徒を支えてあげたい」**という熱い思いを持っていることが分かり、私も、中村学長がウクライナの学生を全力で応援しているように、実習生の皆さんを全力で応援したいと思いました。人は本気で頑張っている人を見ると、自然に応援したくなるものなのです。

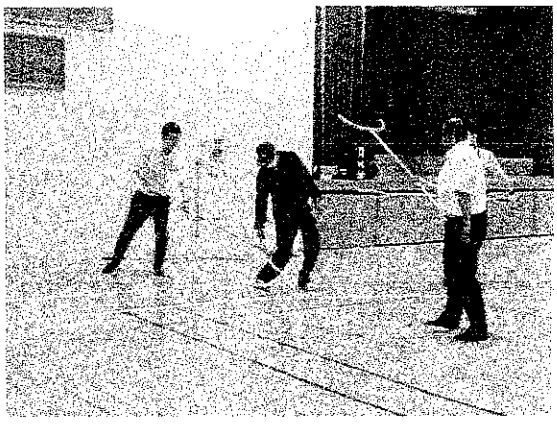
石中の生徒の皆さん、今から、様々な経験をして、将来、自分はどんなことをしたいのかを考えていきましょう。一人一人が、自分が幸せに生きるためにも、「他者の幸せに関わりたい、社会に貢献したい」という利他の精神を大切にしましょう。

まず、第一歩として、仲間のために、何か貢献できないかと想像力を発揮して考えてみてください。何でもいいですから、一人一人が意識して行動で示すことができたら、きっと、みんなが幸せな気持ちになれると思います。

［不審者対応のための避難訓練実施］

６月１４日（水）に、下野警察署中村様を講師にお招きして、不審者が教室に侵入したことを想定しての避難訓練を行いました。体育館に全校生徒を集め、教室に見立て椅子を並べ、３年３組をモデルに、実際に中村さんが不審者の役割を演じ、河内先生は教室での担任の動きを、大山先生、大橋先生、稲垣先生は刺股を持って不審者の対応をやってみました。

実際に、対応してみると、意外に難しいということも実感できました。不審者が刃物などを持っていたら、対応はさらに難しくなることも分かりました。

中村様のお話から

- 一番大切なことは、先生の指示がなくても、とにかく不審者から逃げること。「自分の命は自分で守る」という強い気持ちが大切である。
- 不審者侵入を知らせる合図を決めておくこと。
- 大きな声で助けを呼ぶこと。
- 教室では、机や椅子で自分に近づけないように防御すること。
- 教師が防御するためのモノを準備しておくとよい。
- 刺股は、不審者を制圧するための道具ではない。不審者に対して威嚇する道具と考える。
- 教師３名で刺股を使って、対応する場合は、刺股の角度を変えて、後方、前、横と３方向から、威嚇すると相手は混乱する。決して３人が正面から向かわないこと。